

JOMF 派遣医師便り (2014. 6)

◆シンガポール◆

近視の矯正法～眼内埋め込み型コンタクトレンズ

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

近年、眼内埋め込み型コンタクトレンズ implantable contact lense (ICL)が注目されるようになってきています。近視の治療としては LASIK が既に広く普及し、世界で年間 100 万人以上の方が手術を受けていますが、ICL は LASIK より適応範囲が広い治療法として広まりつつあります。

既に、世界では 12 万以上の人がこの手術を受けており、少なくとも 15 年以上の安全性はあるとされています。このレンズは生体にもあるコラーゲンからできているため、生体から異物と認識されず、余計な免疫反応が起きる心配がありません。

アメリカでの治験では 99%の患者さんがその結果に満足したという結果がでています。

LASIK は角膜がある程度より薄い方、強度の近視の方には施行できませんが、そうした人でも ICL は可能です。ICL は眼内にレンズを半永久的に埋め込むのですが、必要があれば取り外すこともできます。また、角膜を削ることもありません。手術の適応年齢は、45 歳ぐらいまでとされています。

手術の概略は、まず、本手術の 2 週間前に、虹彩の一部に、レーザーでわずかな切れ込みを造ります。この切れ込みは肉眼では見えません。これは水の出入をより円滑にするためです。そして、手術の日は、麻酔を施し、角膜にわずかな切れ込みを入れて、レンズを挿入します。このレンズは虹彩の後ろ、水晶体の前に留置されます。正味の手術時間は 10~15 分ほどです。術後 2-4 時間安静にして何事もなければ、そのまま帰宅できますので、昼間だけの入院（いわゆるデイサージャリー）が可能です。視力の回復は術後、数分から数時間で得られます。

このレンズは自分にも他人が外から見ても通常見えません。そして、特にメンテナンスも要りません。

この手術は一般的に安全ですが、LASIK と比べ、わずかに、リスクは高いようです。最も多いのは感染です。これは、恒久的な視力の低下を引き起こします。ただ、この確率は白内障の手術と同程度とのことです。また、他の合併症として眼圧の上昇があります。これは起こるとすれば術後すぐから起きてきますが、頻度は多いものではなく、点眼薬でコントロールすることが可能ということです。

現在、この治療法は世界 45 カ国で実施されています。日本でも 2010 年に認可されました。

シンガポールではこうした新技術の導入に積極的で、LASIK の時と同様、日本より早く、2005 年から行なわれています。シンガポール国内では National Eye Center をはじめ、現在ではその他、いくつかの施設で行なわれるようになってきています。費用は、術前の適

応検査を含めて 5000 ドルぐらいはかかるため、まだ、LASIK よりは高めです。

ここでは詳述は避けませんが RELEX という方法もあります。これは角膜をレンズ状に取り除くという方法です。術後の近視の改善率は LASIK の 85% に比べて、ほぼ 100% と好成績です。そして、その取り除いた角膜の小片を保存しておき、老視になったら、それを利用して老視の矯正に使うという技術も研究、開発中です。

近視の矯正法は近年、目覚しく進歩してきています。御自身にはどの治療法がよいかは、様々な観点から術前によく医師と相談するとよいでしょう。

御興味のある方は、Singapore National Eye Center のホームページを御参照ください。